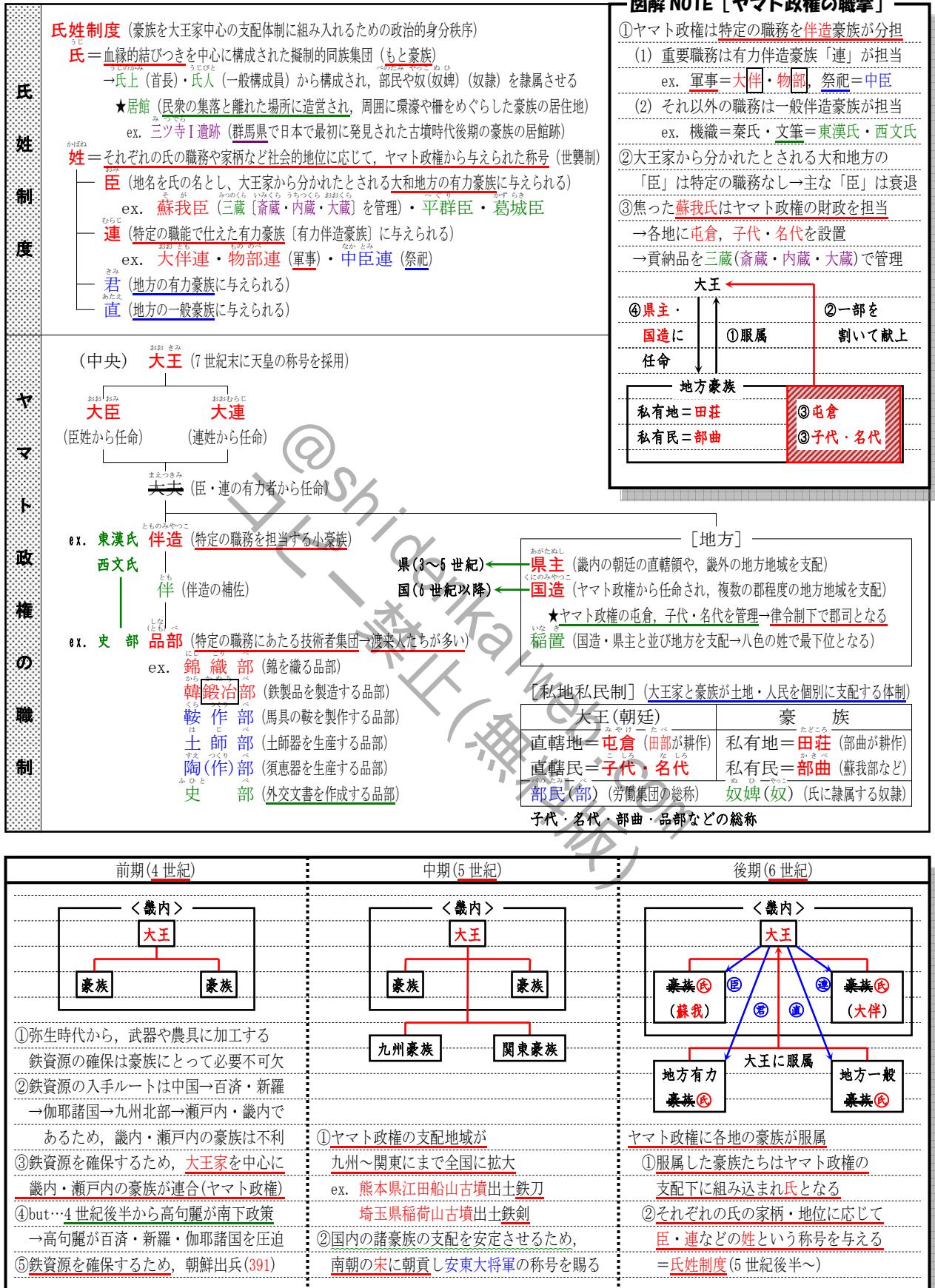


國 内 ・ 対 外 関 係		古 墓 文 化						
4 世 紀	<p>369年 (泰和4年) <u>奈良県石上神宮七支刀</u> (石上神宮〔物部氏の氏神〕に所蔵されている) 百済の<u>肖古王</u>が倭王に贈った、表裏に金石文で61文字の銘文がある鉄劍</p> <p>391年 (辛卯の年) 朝鮮出兵 (目的=朝鮮半島の先進技術と鉄資源の獲得のため) 百済・新羅・加羅に侵攻してきた高句麗の<u>好太王(広開土王)</u>の軍に敗れる in 「<u>高句麗好太王碑文</u>」 (子の長寿王が高句麗の都の丸都に建立) 高句麗が朝鮮半島南部に勢力を伸ばさないよう、<u>高句麗を牽制</u> →南朝に朝貢して、朝鮮半島南部における倭の支配権を求める</p>	<p>【渡来人の来日 (応神天皇期の5世紀初め)】</p> <p>弓月君 (秦氏の祖) ★養蚕・機織りを伝える 阿知使主 (東漢氏の祖) ★東漢氏と西文氏は東・西 王仁 (西文氏の祖) ★ひととべ 史部 (文筆を担当) を管理 ★『論語』・『千字文』 (識字・習字テキスト) を伝える 儒教の經典</p>						
5 世 紀	<p>5世紀 倭の五王が<u>南朝</u>の宋へ遣使 in 『宋書』倭国伝 目的=朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするため</p> <p>421年 倭国王讚 (神皇天皇 or 仁徳天皇 or 肢那天皇) が宋に遣使 438年 倭国王珍 (仁徳天皇 or 戎正天皇) が宋に遣使 443年 倭国王濟 (允恭天皇) が宋に遣使 462年 倭国王興 (安康天皇) が宋に遣使 478年 倭国王武 (雄略天皇) が宋に遣使 (順帝の昇明二年) 宋の順帝から6国の軍事的支配権を持つ「<u>安東大將軍倭王</u>」に叙任される →以前から南朝に朝貢し、軍事的支配権を認められていた百済は除かれた ※北朝に朝貢していた高句麗は初めから含まれていない</p>	<p>【ヤマト政権の支配拡大】</p> <p>熊本県江田船山古墳出土鉄刀 無利弓が「獲加多支國大王」に典曹人として仕える 埼玉県稻荷山古墳出土鉄劍 (471) (辛亥年) 平復居臣が「獲加多支國大王」に杖刀人首として仕える ★「獲加多支國大王」→雄略天皇に比定される ヤマト政権の支配地域が九州へ 関東まで及んでいたことを示す 和歌山県隅田八幡神社人物画像鏡 (503?) 銅鏡に48字の銘文を記す (即位前の繼体天皇時?)</p>						
繼 承 体	<p>507年 繼体天皇が即位 (武烈天皇の死後、<u>大伴金村</u> (大連) が越前から迎える) ← ★6世紀以降、国家体制を固めていた新羅が高句麗・百済・伽耶へ勢力拡大</p> <p>512年 大伴金村 (大連) が任那 (伽耶諸国) 4県を百済に割譲 → 百済に援軍を送れる状況ではなかったので加羅の一部をあげた ★のち、物部尾輿から賄賂を受け取っていたことなどを糾弾され失脚 (540) 磐井の乱 (新羅と通じていた磐井 [筑紫国造] が起こした反乱) 近江毛野を将とするヤマト政権の任那救援・新羅征討軍を阻むため反乱 →物部鹿麿火が鎮圧 (福岡県の岩戸山古墳) は磐井の墓と推定される ★平定後、ヤマト政権は各地に屯倉、子代・名代を設置</p>	<p>513年~百済から五経博士が来日 (儒教の伝来) 6世紀に ★五経=「易経」「詩経」「書経」「礼記」「春秋」 儒教伝来 →のち、易博士・曆博士・医博士も来日 522年 司馬達等が私宅で仏像を礼拝 (仏教私伝) in 『扶桑略記』 (皇円が著した歴史書) ★司馬達等の孫は鞍作鳥 (止利仏師)</p>						
欽 明 敏 達 用 明 崇 峻	<p>562年 新羅により伽耶諸国 (加羅・任那) 滅亡 〔崇仏論争〕</p> <table border="1"> <tr> <td>(崇仏派) 蘇我稲目 [大臣]</td> <td>(排仏派) 物部尾輿 [大連]</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>↓</td> </tr> <tr> <td>蘇我馬子 [大臣]</td> <td>物部守屋 [大連]</td> </tr> </table> <p>渡來人と結びついていた 蘇我馬子 [大臣] VS 物部守屋 [大連]</p> <p>587年 丁未の乱 (蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす) 用明天皇 (厩戸王 (聖徳太子) の父) の死後、皇位継承争いをめぐり対立 →戦後、厩戸王 (聖徳太子) は難波に四天王寺・蘇我馬子は法興寺 (飛鳥寺) を建立</p> <p>592年 蘇我馬子が崇峻天皇を暗殺 (実行犯は東漢直駒) ★石舞台古墳 (奈良県) は蘇我馬子の墓と比定される</p>	(崇仏派) 蘇我稲目 [大臣]	(排仏派) 物部尾輿 [大連]	↓	↓	蘇我馬子 [大臣]	物部守屋 [大連]	<p>〔仏教公伝 (6世紀)〕</p> <p>百済の聖明王が欽明天皇に仏教を伝える 538年 (戊午) 説=『上宮聖徳法王帝説』 552年 (壬申) 説=『日本書紀』 元興寺縁起</p> <p>◎丸都 (現、中国の吉林省集安市) 鴨緑江 高句麗 百済 新羅 任那4県 伽耶諸国 (加羅・任那)</p>
(崇仏派) 蘇我稲目 [大臣]	(排仏派) 物部尾輿 [大連]							
↓	↓							
蘇我馬子 [大臣]	物部守屋 [大連]							

〔社〕 (氏の祖先神である氏神・自然神を祀る)	
伊勢神宮 (三重県) (天照大神を祀る)	★神明造 (伊勢神宮の建築様式)
出雲大社 (島根県) (大国主神を祀る)	★夫主造 (出雲大社の建築様式)
住吉大社 (大阪府) (海神を祀る)	★住吉造 (住吉大社の建築様式)
大神神社 (奈良県) (三輪山を神体とする)	
宗像大社 (福岡県) (沖ノ島を神体とする)	
★沖ノ島=玄界灘に浮かぶ島で、海の正倉院と呼ばれる	

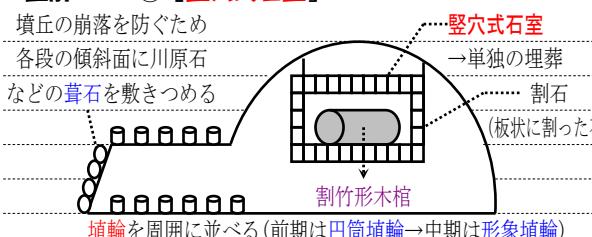
〔習俗〕	
禊 (けがれなどを水で清める)	・ 祛 (けがれなどを払い除ける)
太占の法 (鹿の肩甲骨を焼いて、その割れ具合で今後の吉凶を占う)	
盟神探湯 (熱湯に手を入れて、火傷の有無によって真偽を確かめる原始的裁判)	
祈年祭 (春に行う豊作を祈願する農耕儀礼)	
新嘗祭 (秋に行う収穫を感謝する農耕儀礼)	
★天皇即位の年に行われるものを特に大嘗祭という (天武朝から開始か?)	

[B] ヤマト政権の政治制度



	前期(3世紀後半~4世紀)	中期(4世紀末~5世紀)	後期(6世紀~7世紀)
支配体制	<p>①大王家を中心に畿内・瀬戸内の豪族が連合したヤマト政権が成立 ②結束のため画一的な前方後円墳を築造</p>	<p>①ヤマト政権の支配地域が関東~九州まで全国的に拡大(古墳が東北地方にも分布) ②特に畿内中央部の勢力が強化</p>	<p>①大王(ヤマト政権)に各地の豪族が服属 ②農業生産力の向上→有力農民の台頭 →ヤマト政権の支配下に組み込む</p>
地域	畿内中心(丘陵・台地に多い) ★瀬戸内海沿岸にも発生	全国に拡大(平野に巨大な墳墓)	全国に分布(山間にも築造)
形態	<p>前方後円墳(西日本に多い) 前方後方墳(東日本に多い) 円墳(円形の古墳)・方墳(方形の古墳)</p>	規模が巨大化	規模が縮小 群集墳(小規模な円墳の集まり)
埋葬構造	堅穴式石室 ★墳丘の崩落を防ぐために葺石を葺く	石室を造らずに木棺の周りを粘土でおおう	横穴式石室(朝鮮半島の影響を受ける) ★内部に羨道(通路)・玄室(棺を安置する室) 横穴墓(丘陵の斜面などに水平に掘る)
埴輪	<p>粘土櫛(木棺の周りを粘土で固める) 円筒埴輪(筒形のものなど) ★土留め・葬列模倣・殉死代用などの説</p>	<p>形象埴輪(家・動物・人物などをかたどる) ★家形埴輪・器材埴輪・人物埴輪・動物埴輪</p>	減少
内部	割竹形木棺	長持形石棺	家形石棺
副葬品	<p>銅鏡・勾玉(呪術的・宗教的なもの) ★副葬品として碧玉製飾(装身具)も出土 ex. 三角縁神獸鏡(約400面発見) 同范鏡(同じ鋳型で作った鏡) 舶載鏡(中国などで作った鏡) 仿製鏡(舶載鏡を模倣して作った鏡)</p>	<p>武具・馬具(軍事的なもの) ★高句麗の騎馬軍団との戦いで、倭人たちは騎馬技術を学び、馬具が副葬されるようになる cf. 騎馬民族征服王朝説(江上波夫が提唱) 一大陸から騎馬民族が九州へ渡来し、近畿へ移動して征服王朝をつくったとする説</p>	<p>日常生活用具(須恵器・土師器などの土器) 【土器】 土師器(弥生土器の系譜→赤褐色) 須恵器(朝鮮半島から伝来→黒灰色) ★ろくろを使用し、のぼり窯で焼成</p>
被葬者	司祭的性格の首長	武人的性格の首長	有力農民の台頭
代表例	<p>箸墓古墳(奈良県) 纏向遺跡(奈良県)の遺跡内にある 前期古墳の中で最大・最古の前方後円墳 →倭迹跡目百襲姫命が被葬者(卑弥呼か?)</p> <p>椿井大塚山古墳(京都府) 22面の三色縁神獸鏡が出土した前方後円墳</p>	<p>大仙陵(大山)古墳(大阪府)(全国1位) 百舌鳥古墳群の中心で仁德天皇陵とされる 譽田御廟山古墳(大阪府)(全国2位) 古市古墳群の中心で応神天皇陵とされる ミサンザイ古墳(大阪府)(全国3位) 百舌鳥古墳群の一つで履中天皇陵とされる</p> <p>造山古墳(岡山県)(全国4位・中国地方最大) 作山古墳(岡山県)(全国9位・中国地方2位) 太田天神山古墳(群馬県)(全国27位) 東日本で最大の前方後円墳</p>	<p>岩橋千塚古墳(和歌山県)(群集墳) 新沢千塚古墳(奈良県)(群集墳) 吉見百穴古墳(埼玉県)(横穴墓) 藤ノ木古墳(奈良県法隆寺の西にある円墳) 金銅製の服飾具・精巧な馬具などの副葬品が出土 装飾古墳(墓室に彩色画・彫刻を施した古墳) 高松塚古墳(奈良県)・竹原古墳(福岡県)が代表</p>
終末期古墳	<p>646年 薄葬令(大化の改新に際して、身分に応じた墳墓の大きさ・築造日数を定める=墳墓の築造を簡素化)</p> <p>薄葬令により巨大古墳が禁止されたこと、仏教の伝来により火葬が一般化、寺院や仏院が豪族の権威の象徴となったため、以降古墳は衰退</p> <p>→終末期古墳(7世紀後半~8世紀にかけての特殊な古墳)</p> <p>ex. 石舞台古墳(蘇我馬子の墓?)・高松塚古墳・キトラ古墳・船石遺跡(奈良県明日香村(飛鳥の中心地域)で発見) 八角墳(7世紀後半の正八角形の古墳で、御廟野古墳(京都府の天智天皇陵)・野口王墓古墳(奈良県明日香村の天武・持統天皇陵)が有名)</p>		

図解 NOTE① [堅穴式石室]



図解 NOTE② [横穴式石室]

